

これからの農業をめざす姿

生命や健康に直結する食料の安定供給は、将来にわたって食料を安定的に供給し、国内で生産できるものは、できる限り国内で生産することが重要です。

国は、食糧安全保障の強化に向けて農政の基本方針を定めた「食料・農業・農村基本法」の改正案を令和6年の通常国会に提出する予定です。

改正案では、食糧安全保障に加えて「環境と調和のとれた農業への転換」「人口減少下における農業生産水準の維持・発展と地域コミュニティの維持」を重視し、国内農業生産基盤を維持するために農地の確保や有効活用、輸出促進などの対策を講じる内容となっています。

訓子府町は農業が基幹産業であり、タマネギ・畑作三品（ジャガイモ・小麦・てん菜）・酪農といった経営形態を基本としつつ、水稻、豆類、加工用スイートコーン、メロンをはじめ栽培されている作物は多岐にわたり、皆さんに安全・安心な農産物を供給しています。

現在は肥料などの農業資材や家畜飼料の価格が高騰し、農業においても厳しい環境にあります。これからは農産物を安定供給するため、農業の担い手確保やスマート農業をはじめとした新技術や新品種の導入など持続可能な農業を進めていく必要があります。

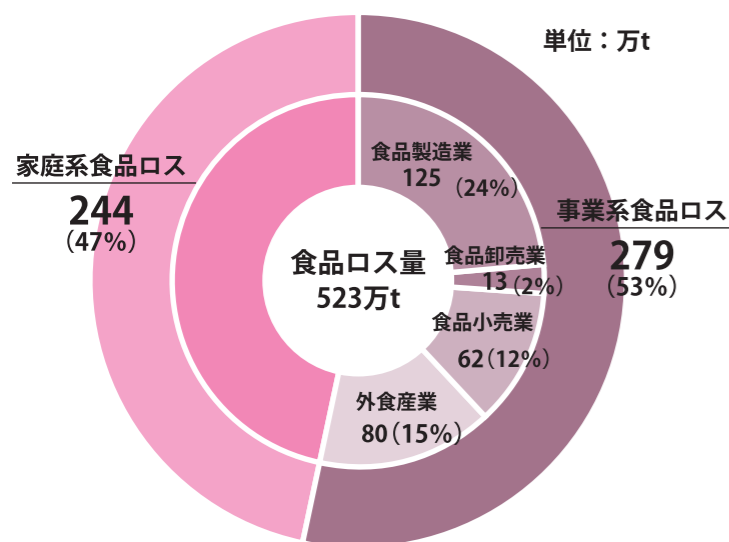


消費者として食品ロスの削減も重要です

日本国内では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」の量は年間523万tにも及んでいます。これは、日本人一人当たりの食品ロス量は1年で約42kgとなっており、一人当たり毎日茶碗1杯分のご飯を捨てていることと近い量になります。

食品ロスは食料自給率にも影響します。食品ロスを減らすためには、家庭で食品ロスが出ないようだけでなく、食べ物を買う店、食べる店での食品ロスを減らす意識が大切です。

店頭で陳列されている賞味期限の順番に買ったり、食べきれぬ分量を注文して食べ残しを出さないなど小さなことから意識して食品ロスを減らしましょう。



国民一人当たりの食品ロス量

1日 約 114g

※茶碗約1杯のご飯の量 (約150g)

年間 約 42kg

※年間一人当たりの米の消費量 (約51kg) に近い量

資料: 総務省人口推計(令和3年10月1日)
令和2年度食料需給表(確定値)

令和6年の 実践会長決まる

連協会長に越智 孝司さん(福野)

令和6年実践会連絡協議会総会が1月15日に開かれ、連協会長に越智 孝司さん(福野)が選出され、ほかの役員、年間活動計画なども決まりました。

18人の各実践会長、連協役員の任期は、令和6年1月1日から12月31日までで、今年1年間、住民自治活動の中心として活躍が期待されます。

実践会長の顔ぶれ

写真の並びは、上段左から会長、副会長、役員(行政区順)



越智 孝司さん
(福野)



井幡 孝一さん
(緑丘)



佐藤 利治さん
(高園)



小坂 孝二さん
(穂波)



小松 寿治さん
(西富)



柴田 一央さん
(開盛)



及川 勝彦さん
(日出)



水上 勝弥さん
(大谷)



奥村 祐之さん
(柏丘)



森岡 和弘さん
(実郷)



黒川 厚さん
(協成)



菅野 隼人さん
(常盤)



中西 里志さん
(豊坂)



小山田英樹さん
(清住)



齊藤 誠さん
(北栄)



境 正人さん
(駒里)



須河 和紀さん
(弥生)



福澤 順宣さん
(中央)

— 新連協役員 —

- 会長
越智 孝司さん(福野)
- 副会長(職務代行)
井幡 孝一さん(緑丘)
- 副会長
佐藤 利治さん(高園)
- 理事
小坂 孝二さん(穂波)
小松 寿治さん(西富)
柴田 一央さん(開盛)
- 代表監事
及川 勝彦さん(日出)
- 監事
水上 勝弥さん(大谷)